

2015年度報告 ものづくり

地設(現地設計)・地産・地消の考えのもと、日本をグローバルマザー拠点(工場)と位置付け、アジア・中国をはじめとする海外拠点と連携し、国内外の幅広い市場ニーズに応える体制の構築に取り組んでいます。2015年度は、米州やインドで新工場を立ち上げるなど、海外生産の拡大を図っています。創業以来培われた「ものづくりDNA」を継承するとともに、IoTを活用した新たなものづくりへ挑戦し、生産性のさらなる向上、最高の製品・サービスの提供に取り組んでいきます。

ものづくり方針

- グローバル生産拠点戦略の推進
- 現場力・生産技術力・人材育成の強化
- グローバルサプライチェーン改革の推進
- 製品の品質向上



技能五輪の訓練に励む若手社員

2015年度の主な取り組み

生産技術力の強化

競争力の高いものづくりを行うため、生産技術力の強化を図っています。設備技術センター(埼玉地区)に、生産技術者を結集し、設備技術開発やコアとなる要素技術の開発に取り組んでおり、各工場と連携して実際の製造設備や工程改善、自動化ラインの開発を進めました。

GE富士電機メーター(株)安曇野工場では、自社設計、

製作を徹底した量産ラインを構築し、「スマートメータの量産化」を短期間かつ低コストで実現しました。(自動化率2014年度69%→2015年度89%)



安曇野工場 自動化ライン

製品の品質向上

「品質」を生産技術の重要な要素の一つと捉え、全社横断組織である生産技術委員会の中に「品質保証部会」を設置し、安定的かつ均一な品質水準の実現を目指して活動していま

す。2015年度は、国内外の各拠点の品質向上活動、QC検定合格者拡大、失敗を活かす研修会の開催、リスク対応の強化など、製品の品質向上に取り組みました。

人材育成の強化

メーカーの原点であるものづくり力の強化に向け、国内マザー拠点では、技術・ノウハウの蓄積、および技能五輪への取り組みを通じ、高いレベルに挑戦できる技術・技能と意欲を

持った優秀な人材の育成に取り組んでいます。国内で培われた「ものづくりDNA」を海外拠点へ伝承し、世界どの地域でも、同じ品質・サービスの提供を可能としていきます。

TOPICS



大連富士冰山自動販売機社製造課の社員

中国 自動販売機工場の生産性向上の取り組み

2015年度は、「生産性向上、生産リードタイム短縮、仕掛品の削減」に取り組みました。作業工程分析により、問題点を特定し、作業工程の見直しや組立ラインのレイアウト変更などを進め、効率的な部材供給や流れ生産化を実現することで作業時間、運搬時間を削減し、大きな成果をあげることができました。

今後、中国の自販機市場は大きな伸長が予想されており、物量増加が見込まれています。2016年度は、増設した生産設備や新設した自動溶接ラインを有効活用し、SCM*活動を通してさらなる生産性向上を実現することで、年間40,000台(前年度29,000台)の生産目標を達成します。

* Supply Chain Management。企業や組織の壁を越えてプロセス全体の最適化を行い、無駄を排除することで、企業に高収益をもたらす戦略的な経営管理手法